

「初級文法」復習教材の問題点

—初級文法復習の効果的方法の模索—

川口さち子（聖学院大学）
s_kawaguchi@seigakuin-univ. ac. jp

【要約】

本研究では、「初級文法復習」クラスで使用されたテキストと参考教材の問題点を取り上げた。初級文法復習用の教材は、どれも、文法事項の表現性について言及せず、それらの使用文脈を示せていないものであった。また、「文脈」があがっている例でも、文化的知識がないと理解しがたい行事・習慣・風土に関する問題や、そのシステムを知らないと答えられないような機器に関する問題があった。また読解問題にも、本来の文法項目の学習からずれているものがあった。

さらに本稿では、最後に問題解決の試みとして、このような教材に頼らずに、個人化作文や Moodle を利用した活動を紹介した。これらの活動のほうが学習者に、より自然な文脈の中で表現の模索や文法事項の使用意識化の機会を提供できると考える。

1. はじめに

本学では 2013 年春学期(4月～7月)に、民間日本語学校を経て学部に正規入学した学生(セネガル籍 1名)と交換留学生(韓国籍 2名)のための週 14 コマの「特別プログラム」を開講した。そのうち 2 コマを、初級文法の復習クラスとして設定した。このクラスは、初級課程は修了しているが、初級文法の理解が完全でない学生のために、復習を行うのが設定の目標である。

筆者は、そのうちコマ(90分)を分担した。文法のメインテキストとして足立他(2002)『文法が弱いあなたへ』を使用し、1回1課進むという進度で授業を行った。まず、復習プリントを配布し、文法項目の復習を行ったあと、本書に入った。ほかに応用として、加藤他(2011)『どんどん使える! 日本語文型トレーニング初級』も参考教材として、指導を行った。

メインテキストも参考にした教材も、復習教材として問題点が多いことを感じたので、それについて述べたい。また、最後に初級文法の復習のより効果的な活動としてひとつの試みを述べることにする。

2. メインテキストの問題点

本書の構成は、1課について、簡単な文法項目の復習をするページがあり、そのあと、後半が読解問題のページとなっている。読解ページは、内容はそれなりにおもしろいが、読解力が要求されるため、「復習」というより、中級読解問題のようである。特に内容が複雑な場合は、その理解に時間がかかってしまうことがある。そもそも、文法復習のために読解をする必要があるのだろうか。これによって文法力はつくであろうか。

また、文法項目の説明自体が、初級の一般的な教科書と同じような、それも簡便なものではないため、文型間の関係・異動が学べず、復習用教科書として効果的でない。

2-1. 具体的な問題点の分析:~タ

6課の「いろいろな「~た」」p.17の読解問題(2)について述べる。

読解本文(抜粋)は以下の通りである。

ある夜おそく、おじいさんが家でいつものように酒を飲んでいると、とんとん戸をたたく者がいた。戸を開けると、そこには小さい男の子がいた。「どこの子だ」と、おじいさんが聞くと、「森の子だ。道がわからなくて、帰れない」と答えた。おばあさんは、「もうおそいから、朝になったら帰れ。」と言って、子どもを家に入れた。しかし、その子どもは夜の間ずっと起きていて戸口のところに立ったまま、ふとんの中に入らなかった。おじいさんは、「子どもは、もう寝たほうがいいぞ。」と言ったが、子どもはにこにこしてうなずくだけだった。

読解部分の2の(2)のところで、登場人物の気持ちを問うところがある。以下のことばはだれが思ったことかという問いである。

- ②「この子どもはどこから来たのだろう。」
- ③「この子どもはいつ寝るのだろう。」
- ④「明るくなったら、子どもは森に帰るだろう。」

解答の選択肢は「a.おじいさん・b.おばあさん・c.男の子」だが、問題の②~④については答えがaかbかであることが分かっても、上の読解文の関連部分(斜体で示す)からそのどちらであるかを決めることは不可能ではないだろうか。

また、この問題は、だれがどう思ったことかを問うもので、「~た」の文法的用法と何の関連があるのか不明である。

2-2. 具体的な問題点の分析:~はず①

21課「~はず」の復習 p.46

問題2は、選択肢から選んでの文の穴埋め問題である。下線部が正解の選択肢になっている。

- ②そのことは、まだ話していないから、(知らないはずです。)
- ③野菜の嫌いな野村さんが全部食べたのだから、(おいしいはずです。)

上記の問題はすべて「~はず」を使っているが、短文で文脈が分からないので、正解が分かったとしても、「~と思う」「~にちがいない」などとの区別が学べず、中級へ向けての「復習」にならない。また、これは、文脈で「知らない」や「おいしい」を選ぶことになり、文法ではなく、語彙の問題なのではないのか。

問題3は、設問4題中の3題が「b.はずだった」、1題が「d.はずじゃなかった」が正解だと明らか過去の話なので、「a.はずだ」「c.はずじゃない」を選択肢にしてあることに意味がない。

設問の中に、接続詞の「~のに」や「予定だ/つもりだ」等も使えるのに、同じパターン(下線部)の繰り返しで、表現のバラエティを示そうという姿勢が見えないため、これも復習用の教科書としては

効果が薄い。例えば、以下の例では、アの部分に「...買う(予定だった/つもりだった)のに」等も使えるのではないだろうか。

デパートでリンダの誕生日のプレゼントを買う(ア:はずだった)が、クレジットカードを忘れてしまった。

2-3. 具体的な問題点の分析:~はず②

21 課「~はず」の読解 p.47

読解本文(抜粋)は以下の通りである。なお、[]内の登場人物や殺人現場の状況についての解説は、筆者によるものである。

窓は小さいから犯人の体は(小さい/細い)はずだ。だから犯人は中原新太郎(じゃない)はずだ。[中原新太郎は 89kg という設定] 死体には切り傷がないから、ナイフやコップ[現場メモに「ナイフとわれたコップ」と記載]を(使わなかった)はずだ。

この課の読解文は、刑事ものの推理ストーリーで、殺人事件の容疑者を、イラストと人物設定のメモ付きで挙げてあり、ここから犯人を推理させるという趣旨のものである。

犯人は小さい窓から逃げたと想定して、()内に答えを書かせる問題である。上記下線部が模範解答である。

確かに推理するという点で「はず」を使うのは適当だが、「と思われる」「に違いない」などでも表現できることは示されず、「~はずだ」のオンパレードなのは不自然ではないだろうか。

2-4. 具体的な問題点の分析:~と①

29 課「~と」の復習 p. 62

問題 1 は、選択肢同士を線で結ばせる問題だが、接続助詞がトでもバでもいいような問題があり、この二つの条件表現の区別を理解できない学習者の助けにならない。以下に下線で示したように、バのついた条件句でも、不正解とは言えない。

- ①日本では 18 歳になると・なれば — d. 車の免許をとることができる
- ②電気をつけると・つければ — a. 明るくなる
- ⑤日本では 20 歳になると・なれば — f. お酒が飲めるようになる

①も⑤も、文脈次第でトでもバでも適切な文になり、これでは条件句の相違を学習させることができない。②のような状況設定の不明なものは、そもそも問題としても不適切である。

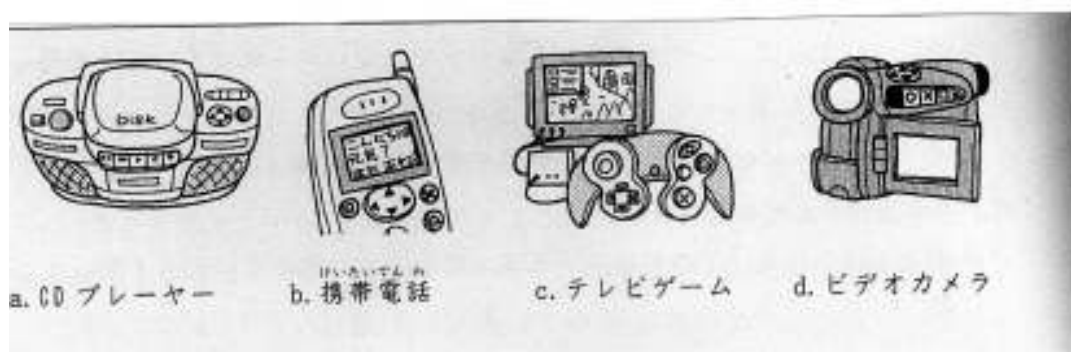
問題 2 は、ある道具の説明書の記述から何の道具かを選ぶ問題だが、説明が分かりにくく、また、選択肢の「a.CD プレーヤー/b.携帯電話/c.テレビゲーム/d.ビデオカメラ」の挿絵がわかりにくく、それを見てもヒントが得られない。問題の説明書本文は、以下のとおりである。

- ①本体の右のボタンを押すとふたが開きます。
- ②CD を入れてふたをします。
- ③左のボタンを押すと電源が入ります。
- ④タイトルが出たあと、コントローラーのスイッチを押すと、始められます。
- ⑤まる (o) のボタンを押すと、人と話したり、ものを調べたりできます。
- ⑥ばつ (x) のボタンを押すと、キャンセルができます。
- ⑦しかく (□) のボタンを押すと、持っているものが使えます。

- ⑧さんかく (△) のボタンを押すと、地図が見られます。

- ⑨左の上下左右のボタンを押すと、それぞれの方向に歩けます。

以下の教材コピー 1 が説明書に関する挿絵である。[教材コピー 1]



この説明書の正解はcのテレビゲームであるが、テレビゲームをやったことのない者には、この機能が分からない。①②③ぐらいまでの文では、答えはCDプレイヤーかと思うが、④あたりの文から「コントローラー」という言葉で、どうもテレビゲームらしいとは思いますが、そもそもテレビゲームを見たことがない者には、⑤以下の説明文が理解できないのではないだろうか。

⑤の「ばつ(x)のボタンを押すと、キャンセルができます。」については、b/c/dの絵にすべてxボタンがあり、どの道具も「キャンセル」機能がありそうに見える。

このような機器についての説明は、授業の「と」の機能の導入に使うのはよいが、文法の問題として、経験のない者に解けないような問題を入れるのは不適當ではないだろうか。

2-5. 具体的な問題点の分析:〜ト②

29課「〜と」p.63の読解文について
読解文(抜粋)は以下の通りである。

お昼を食べたあと、私が2階で本を読んでいると、①「ガチャーン」と大きい音がした。何だろうと思って下におりて行くと、1階の台所のテーブルの上のコップがおちてわれていた。どうしてだろうと考えていると、玄関から②「ドン」と大きな音がした。いそいで玄関へ行くと、花びんがおちていた。(中略)ろうかをそうじしていると、(中略)部屋に入ると、留守番電話のスイッチが

入っていて、私の声で③「...帰りましたらすぐ電話します。」と話していた。(中略)見て歩いていると、今度はやねに何かおちたような④「ドスン」という音が聞こえた。(後略)

上記の読解文を読んだあと、①～⑤(下線部)が何の音・声かを選択肢から選ぶ問題であるが、これは、オノマトペの語彙問題であり、文法問題ではない。

ちなみにこの文章で使われている「～と」は、物語を語るときに使われる、いわゆる「発見のト」であり、練習問題の1番や2番で使われているものごとの必然的な生起に注意を向ける「と」とは使われたかたの違うものである。用法の違いを問うのであれば、オノマトペの語彙問題ではなく、文法の用法の違いを問う問題にすべきであろう。

3. 参考教材の問題点

ここでは、参考教材として利用した『どンドン使える! 日本語文型トレーニング初級』について分析する。本書の構成は、1課について、「チェックしよう」の部分と「やってみよう」の部分で構成されている。前者は、簡単な○×問題だが、後者は読解をからめて、学習項目を使った文の完成問題が中心となっている。ここの読解部分の問題が難しく、読解文の理解にも時間がかかってしまい、それだけの時間をかけて理解することがそのまま文法のトレーニングになるのか、きわめて疑わしい。

最後に「ワンポイント」といって、用法上の説明を載せてある部分があるが、ここの説明が不十分で、これで書名のように「どンドン使える」ようになるとは思えない。

3-1. 具体的な問題点の分析:～ト①

56課「～と」の文完成 p.126

問題①の2.に雪国のトンネルを抜けようとしている列車の絵があり、それについて次のような文完成の問題があるが、川端の『雪国』や冬の新潟の情景を知らないと解答困難ではないか。

2. A:新潟はどうでしたか。確か、途中で長いトンネルがありますよね。

B:ええ。長い[]んです。真っ白な景色がとてもきれいでした。

模範解答は、「トンネルを出る／抜けると、雪が降っていた」となっているが、「真っ白な景色」は、外に出て明るくなったためなのか、一面の花畑なのか、複数の解釈が可能である。

56課「～と」の文完成 p.127

同じ問題①の4.に車のライトなどを受けて光るスニーカーの絵があり、それについて次のような文完成の問題があるが、こういう機能の靴があることを知らないと解答困難ではないか。

4. A:このシューズ、夜、周りが[]、安全なんだ。

B:ああ、車とかのライトがあたるからだね。いいね。

模範解答は「暗い/暗くなると 光って/光るから」だが、光るのは靴自体なのか車のライトの反射なのか分からず、正解の「暗い/暗くなると」を導き出すヒントにならない。

以下教材コピー2は問題のページのコピーである。2番や4番のイラストがあまりヒントになっていないことがわかる。[教材コピー2]

56

～と、

When/if [S1] (condition/habitual action), [S2]
- 则 / - 则ニ
- 就

✓ チェックしよう

1、2の [] に何が入りますか。正しいものに○、正しくないものに×を書きましょう。

1. 春になると、[]。

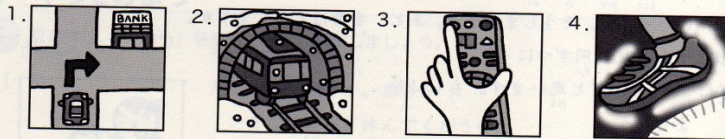
- a. 桜が咲きます。 []
- b. どこか行きたいです。 []
- c. 毎年お花見をします。 []

2. 久しぶりに友人に手紙を出すと、[]。

- a. 次の日には届きます。 []
- b. 住所が違っていて返ってきました。 []
- c. 返事を送ってください。 []

✎ やってみよう

① 絵を見て、「～と、～」を使って会話を完成しましょう。



1. A: 銀行はどこにありますか。

B: この道を []。

2. A: 新潟はどうでしたか。確か、途中で長いトンネルがありますよね。

B: ええ。長い [] んです。

真っ白な景色がとてもきれいでした。

3-2. 具体的な問題点の分析:～ト②

56 課の「ワンポイント」 p.127

55 課の「～たら」も加えて、「～たら」と「～と」について二つの説明がある。

1.①いつも必ず起こることを言うとき、使います。

例) 4月に[oなったら/oなると]、桜が咲きます。

②発見、きっかけ、続けて起こることなどを言うとき、使います。

例) 4月に[oなったら/oなると]、クラスの担任の先生が変わりました。

この1の①の例文は、「～ば」でも言えるが、それには言及せず。また、「～たら/～と」の表現性の別も説明されていない。

57課の「ワンポイント」 p.129

57課は「～ば」なので、55-57課を読めばこの三つの仮定表現の差が分かるかと言えば、分かるようには仕組まれておらず、56課・57課とも意志、希望、依頼、勧誘などの表現に使えないとか、「～ば」は述語によって意志、希望でも使えるとか、共起制限の説明しか書いていない。

次のような仮定表現間の表現差をどうして取り上げないのだろうか。

◇短い期間でやせたいのなら、

A:ビールを飲まなければいいんだよ。

B:毎日1時間くらい運動してみたらどう?

C:一か月糖質ダイエットするといいよ。

Aのバは、「唯一絶対のものという確信を持って、特定の情報を与える」という強い意見を述べ、Bのタラは助言を求められたときに対する常識的で受け入れやすいアドバイスを与える表現である。Cのトは「自分が持っている情報を相手に分かりやすい形で与えて、相手に行動を指示する」という表現意図(川口 2004)を持っていて、自分の成功体験を共有したいときに効果的である。このような表現意図の差に言及すべきである。

3-3. 具体的な問題点の分析:～はず

86課「～はず」の文完成 p.190

以下の問題2題とも、なぜ「～はずだ」を使わなければいけないかが不明である。指示に「～はずです」を使って、会話を完成させよとあるから使うのでは、「どんどん使える」ようにはならない。矢印以降に、他の可能な解答も書き加えたので、比べられたい。

1. A:久しぶりにまりさんに会えるね。まりさんの赤ちゃんに会うの、初めてだから、楽しみだなあ。

B:(略) 赤ちゃん、もう歩けるのかなあ。

A:半年前に生まれたばかりでしょう?まだ []よ。→歩けないと思う等も可

3. A:山田さんって、結婚しているのかなあ。

B:いや、[]よ。→まだらしい等も可

C:じゃあ、私にもチャンスがある!

②の以下の問題も、同上である。「～はず」が必然である文脈や他の推量表現との表現差が分かるように問題が作られていない。

1.ずっと見たかった歌舞伎のチケットを、やっと買うことができた。妹の誕生日が近いから、妹に

も買った。ずっと歌舞伎を見てみたいと言っていたからだ。

⇒このチケットをあげたら、妹は[]。→行くだろう/と思う/に違いない等も可

2.この神社はいつからあるのだろうか。母が生まれたとき祖母がこの神社にお参りに来たと言っていた。⇒この神社は母が生まれる前から[]。→あったらしいのだと思う等も可

4. 初級文法復習のひとつの試み

メインテキストも参考教材も、学習項目である文法事項や文型を使用する文脈が示せておらず、ただその文型・文法項目を使えと指示するだけで、それらがどのような表現性を持っていて、どういうときにどうしてわざわざそれを使うかが示されていない。これでは、初級の復習にも中級への橋渡しにも、効果的ではないものと思われる。

初級の復習をしながら、既習の文法項目を使えるようにさせるには、それらの項目を「個人化」して使わせ、それによって特定の文法事項を使用する文脈が理解できるような課題を与えなければならない。そのために行いうる試みとして、「個人化作文」と「Moodle によるやり取り」の二つを紹介する。

4-1. 「個人化作文」の指導

「個人化」とは、表現練習の際に、どんな課題でも必ず学習者個人の感情・経験・思想などに基づいて表現するように指示する教室活動である。それを、Q&A で行えば「個人化質問」、文型作文でさせれば「個人化作文」と呼ぶ。

紹介する作文例は、2012 年度の「通常課程レベル1」の学生(日本語学校から当大学へ入学した学生であるが、初級レベルの復習を必要とする学生)に文法項目の説明および問題集での練習のあとで書かせたものである。

4-1-1. 「個人化作文」の作品例(1)

以下の作文は「～ている／てある」を使い、自分の部屋について記述するよう指示したものである。(下線筆者。表記ママ)

わたしは、今新宿のアパートにふたりで一緒に住んでいます。部屋にはふたつのベッドがあります。ふたりとも荷物が多いです。部屋のかべにテレビがついていますが、だれも見ていないです。私は植物が好きだから、天井から花を吊ってあります。たにく植物も何個か吊ってあります。私と父と母の写真が部屋の下このかべに貼ってあります。部屋は大きくないけど、本棚、冷蔵庫、つくえ、いすなどがあります。私はよくゲームセンターに行って、取れたおもちゃはベッドの上に置いていますが、大きすぎるから私の寝る場所もなくなってしまいました。(2012・中国・女)

4-1-2. 「個人化作文」の作品例(2)

「～してもらってうれしかった」ことについて記述するよう指示したものである。(下線筆者。表記ママ)

(前略)最初日本へ来た時、日本語はまったくできなかった。学校で日本語の勉強を終わって帰る

時、電車の中で財布、パスポートを忘れてしまいました。電車を降りた後でどこに行けばいいですか、誰に電話すればいいですかまったくわからなかった。(中略)知らない日本人が私のそばに近づいて、どうしたのと聞かれたら、ていきけんがなくなってしまったと言ったら、あの人は駅員に連れて行ってくださいました。そのときけいたい電話を持っていないから、あの人のけいたい電話で学校に電話してくれてうれしかったです。日本語わからないので、学校の人たちと話しながら知らない日本人が駅員からもらった紙にわたしのため名前、住所をすべて書いてくれました。本当に学校の事務の人たちが助けてくれて安心した。よかったです！(2012・ベナン・女)

4-1-3. 「個人化作文」の作品例(3)

以下の文は「こどものとき、させられていやだったこと、就職したらさせられたくないこと」について記述するよう指示したものである。(下線筆者。表記ママ)

・両親が農業をしていた時、昼ごはんを作らせられたことが多かった。家で家事をしなかったら、親をおこらせた。宿題をしないで学校へ行ったら、宿題を終わるまで帰らせないで待たせられた。(2012・ネパール・男)

・ボーナスをくれないで残業をさせられたくないです。一週間に一回も休まずに働かせられたくないです。先輩と言われて自分が失敗して部下に責任を持たせられることがいやです。(2012・ネパール・男)

以上の作品例を見ると自分のことについて非常に生き生きと書いていることが分かる。また、それぞれに使用が指示された文法項目が正確に使われている。このように、自己について語ることを課するのは、課題の文型を使いこなすことを促し、それによって文法項目の持つ表現性を身につけることができるようになるのではないだろうか。

4-2. Moodle によるやり取り

「Moodle によるやり取り」とは、授業で文法項目を復習し、口頭で「個人化」表現活動をさせてから学生たちに moodle 上で入力させる教室および在宅活動である。前述の、川口の「個人化作文」の指導法を基に、非常勤講師の藤本かおる氏が考案し、実施したものである。

紹介するやり取りの例は、2014 年度「特別プログラム」の学生(ベトナム籍 3 名・ネパール籍 1 名・スリランカ籍 1 名)によるものである。「日本語教員養成講座」受講の当大学の日本人学生もボランティアとして参加し、自然に質問し、回答している。

この活動の利点は、母語話者の日本語を読みながら、会話風にやり取りできることで、自然な文脈の中で「個人化」により習得強化が可能な点である。

4-2-1. やり取りの記録

以下の例は「～たら」を使って質問の文を考え、他の参加者の質問には答えを書くように指示したものである。(T=教師・S=学生・V=ボランティア学生)

[学生内訳：SA=ネパール籍女・SB=ベトナム籍女・SC=スリランカ籍男・SD=ベトナム籍男・SE=ベトナム籍女]

例(1)

T: 50 才になったら、どこで何をしていると思いますか。

SA: 多分ネパールでこどものめんどろを見ています。

SB: 50 才になったら、私の故郷で仕事していると思います。毎朝早く起きて海に散歩して朝日を見ます。

T: こどもは何人ぐらいほしいですか。

SA: 二人ほしいです。一人は男の子と一人は女の子がほしいです。

例(2)[下線・解説筆者。表記ママ]

VA: 1. 夏休みになったら何をしたいですか。

2. にいがたに行ったら、何を食べたいですか。[ボランティアは新潟出身の学生]

3. タイムマシーンがあったら、どうしますか。

SA1: 1. 家を掃除してゆっくり家で休みたいです。

2. 新潟の一番おいしい食べ物は何ですか。 [漢字を使用し、逆質問をしている。]

3. タイムマシーンがよく分かりません。

SA2: 1. 国へ帰ります。

2. お酒を飲みたいです。

3. こどものころに戻りたいです。 [「タイムマシーン」という新出語を理解したのち、答えている]

例(3)前の課題と同じもの[下線・解説筆者。表記ママ]

SA: 1. 国の有名な人に会ったらどうしますか。

2. ネパールへ行ったらヒマラヤをのぼりますか。

3. 外国人と付き合ったら結婚したいですか。

VB: 1. サインをしてもらいます。

2. ヒマラヤに登ります。 [漢字使用][助詞正用]

3. 外国人の友だちはほしいけど、結婚は考えていません。

SB: 1. 写真をとりたい。

2. ヒマラヤに登ってみたい。 [この学習者は、漢字を使用し、文型も複合使用、助詞が正しく使われている]

3. 外国人と結婚したくない。

SC: 2. もちろん登るよ。

例(4)[下線・解説筆者。表記ママ]

SC: くるまがあったらどこへいきますか。

SB: 近くの海へいきたい。

VB: できたら沖縄まで車で旅行してみたいです。[漢字使用]

SD: 車があったら、日本中いきます。[漢字使用]

T: 北海道を車で旅行したいです。北海道はとても広いですから、電車があまり便利じゃないんです。

例(5)

SE: もし、明日に世界が終わったら、あなたは何をしますか。

VB: 二次元に帰りたいです。また世界が終わる前にラーメンが食べたいです。[「二次元」については、理解度確認の機会となる。]

SA: ぜんぶお金を使ってみんなで大きいパーティーをしたいです。

以上の例を見ると、教師から質問を発したり、ボランティアが質問を発したり、学習者が質問を発したりして、自由にやりとりをしていることが分かる。また、書いているので、はじめの質問がひらがなで書かれていても、次に答える学習者が漢字を使っていたり、最初の学習者が助詞を間違っ使っていても次の学習者は正しく使っていたりするようすが見え、自発的な学習になっている。

5. 結論

初級レベルの文法の復習を行うのに、今回使用したメインテキストも参考教材も、所期の目的を果たすには不都合であった。それは、前述のようにそれらの教材が文法事項の表現性について言及せず、それらの使用文脈を、復習のために適切に示すことができていないことが原因であろう。

一方、「個人化作文」や「Moodle によるやり取り」では、文法項目の復習をしながら、それらを使う表現課題を与えることで、学習者に、自然な文脈の中で表現の模索や文法事項の使用意識化・漢字の積極的な使用などの自律的な学習の機会を提供できた。

今後は、教材に頼らない表現活動を通じた既習文法事項の復習授業を実施して、教育効果を上げる実践の積み重ねをし、その成果を分析していきたい。

参考教材

足立章子・金田智子・鈴木有香・武田聡子 (2002) 『文法が弱いあなたへ』 凡人社

坂本正監修、加藤文・小柏有香・早野香代・坂大京子著 (2011) 『どんどん使える! 日本語文型トレーニング初級』 凡人社

参考文献

川口義一 (2004) 「表現教育と文法指導の融合—「働きかける表現」と「語る表現」から見た初級文法—」『ジャーナル CAJLE』 第6号 カナダ日本語教育振興会

川口義一 (2008) 「日本語教育の実践から見た第二言語習得研究」 第二言語習得研究会 (編) 『第二言語としての日本語の習得研究 11』 凡人社

川口義一 (2010) 「初級日本語教室における日本語能力—その認知的側面・情意的側面・社会的側面—」『早稲田日本語教育学』 第8・9号 早稲田大学大学院日本語教育研究科

杉浦千里・ボイクマン総子他 (2011) 『わたしのにほんご 初級から話せるわたしの気持ち・わたしの考え』 くろしお出版

縫部義憲 (2001) 『日本語教育学入門』 (改訂版) 瀝々社